

令和8年度宇宙航空科学技術推進委託費 公募説明会

16時より開始いたしますので、カメラ、マイクはオフにしてお待ちください。

説明会の最後に質問を受け付けますので、可能な限りお名前がわかる表示名に設定いただきますようお願い致します。

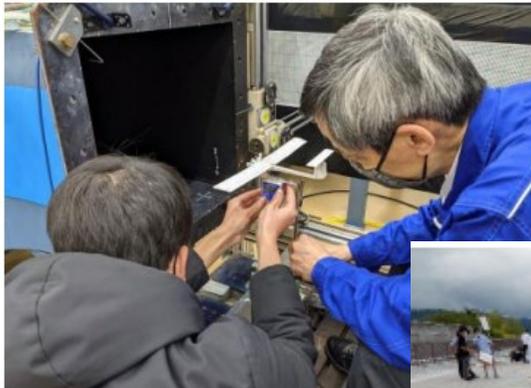
※個別の提案内容に関するものは説明会内ではお答え出来ません。

1. 宇宙航空科学技術推進委託費とは
2. 令和8年度公募について
 - ①公募対象プログラム
 - ②評価項目、審査基準
 - ③スケジュール
3. Q&A

1. 宇宙航空科学技術推進委託費とは

宇宙航空分野における 新たな可能性の開拓や裾野拡大

①宇宙航空開発利用の発展を
支える人材育成

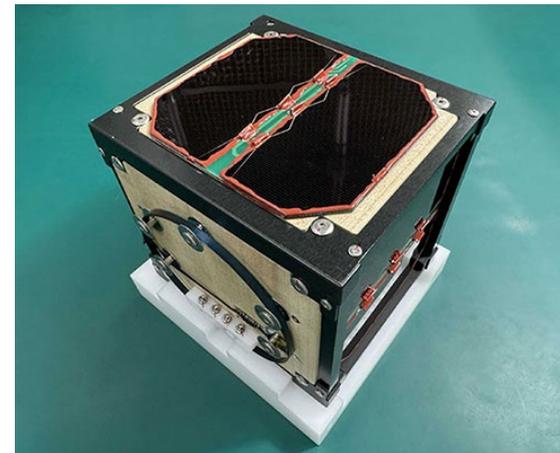


H30年度本委託費事後評価結果
「飛行機を作って学ぶアクティブ・ラーニングによる航空機設計・製作技術教育」(学校法人中部大学)



R2年度本委託費事後評価結果「継続的な超小型衛星開発・運用を通じた次世代の高専型宇宙人材育成」(独立行政法人国立高等専門学校機構 新居浜工業高等専門学校)

②宇宙航空利用を新たな分野で
進める研究開発



住友林業ウェブページ



©JAXA

平成21年度 宇宙利用の裾野拡大を目的として創設
平成22年度～ 競争的資金制度(現在は競争的研究費制度)として運用

宇宙人材育成プログラム

①宇宙専門人材育成

②新規分野開拓人材育成

③次世代人材育成

④地球低軌道インターフェース人材育成

⑤航空実験基盤拡充プログラム

⑥革新的航空科学技術創出プログラム

2. 令和8年度公募について

①公募対象プログラム

政策的背景

宇宙基本計画(令和5年6月閣議決定)

- ✓ 最先端かつ実践的な研究開発活動への大学生や高専生などの参加機会の提供(中略)等を通じて、先端・基盤研究を担う大学等における人材育成への支援等を強化する。
- ✓ 人文・社会科学やAI・デジタル技術等に関する高度な知見を有する人材に関しては、宇宙分野への積極的な参画を促すための基盤・拠点の構築を進める。

令和7年度に実施した、「宇宙人材育成プログラム/宇宙専門人材育成」をより細分化

①宇宙専門人材育成:

宇宙工学分野に係る高度な知識と技術を身に付けた技術者や研究者を目指す人材を育成

②新規分野開拓人材育成

主に宇宙工学やAI以外の分野(建築学、医学、生命科学、服飾学、社会科学、法政策、デザイン、哲学・倫理学など)を専門的に学び、新たな視点から将来の宇宙開発や我が国のプレゼンス強化に寄与する人材を育成

③次世代人材育成

高校生や高等専門学校生へ育成対象を裾野拡大し、宇宙への興味・関心を深める

2. 令和8年度公募について

①公募対象プログラム

①宇宙人材育成プログラム/宇宙専門人材育成

目的	宇宙工学分野への基礎知識を既に持ち、座学に加え、模擬衛星やロケット、気球等の開発・打ち上げや、衛星データの活用など、実践的な取り組みを経験することで、宇宙工学分野に係る高度な知識と技術を身に付けた研究者や技術者等を目指す人材の育成
育成対象	大学院生、大学生、高等専門学校生等
研究期間	3年間(令和8年10月頃～令和11年3月31日)
採択件数	3件予定(①～③のなかで)/1年あたり1,560万円(間接経費込み)

○対象となる取組例

- 衛星やロケットの小規模プロジェクトによるPBL (Project Based Learning)を経験することで、実践を伴う宇宙工学分野の知識や技能を獲得し、将来の宇宙開発を担う人材を養成するプログラムの構築・実施
- 宇宙関連企業でのインターンや、海外の宇宙研究機関での研修等により、最先端の宇宙工学研究について知見を持つとともに、広い視野を持って宇宙工学研究を進められる能力を養成するプログラムの構築・実施 等

2. 令和8年度公募について

①公募対象プログラム

①宇宙人材育成プログラム/宇宙専門人材育成

(実施要件等)

- ✓ 宇宙分野で活躍できるような**専門性を高められる**プログラム
- ✓ 宇宙関連企業や研究施設でのインターンや研修など、将来、**宇宙工学の知識を活かして就業するビジョンが見えやすい**プログラム
- ✓ プログラム内で育成する人材像や必要なスキル等の提示
- ✓ 教育プログラムの効果、育成する学生等の**成熟度・成長度合い**等を測定・評価する手法を提示
- ✓ 事業終了後も引き続き取組を行うために必要な連携体制の構築や資金の確保
- ✓ 学部・学科等の組織単位(実施機関が大学)や他機関も含めた取り組み(民間企業等)
- ✓ (推奨)宇宙スキル標準との連携

2. 令和8年度公募について

教育プログラムの効果、育成する学生等の成熟度・成長度合い等を測定・評価する手法
過去の採択課題である以下2つを推奨

コンセプトマップ

知識構造や理解水準を可視化することにより
教育効果が評価できる

ルーブリック

目指す人材に対応付けされた評価の視点と
その評価基準により教育効果が評価できる



図12 初回講義で作成したコンセプトマップ

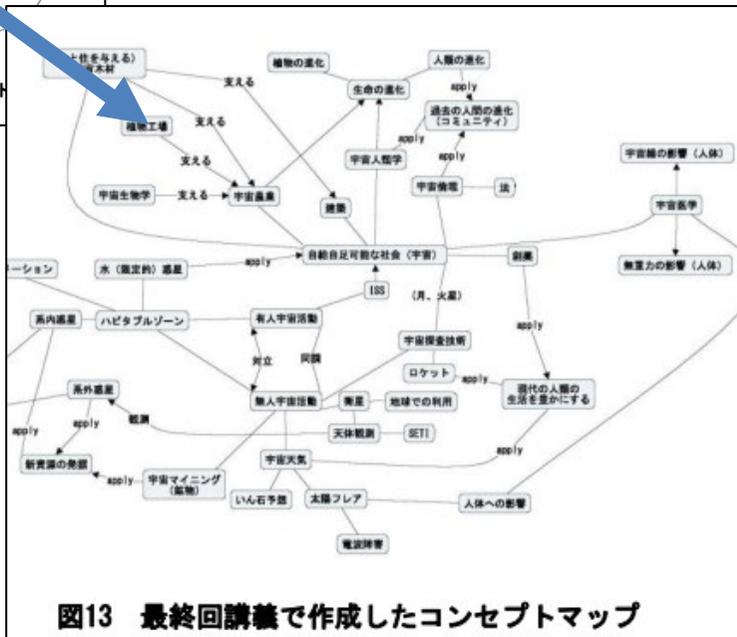


図13 最終回講義で作成したコンセプトマップ

求める能力・資質の観点と各評価のルーブリック

観点	優レベルの目安 【5点】	その 中間 【4点】	良レベルの目安 【3点】	その 中間 【2点】	可レベルの目安 【1点】
a. 宇宙科学技術への興味と関心	興味・関心が非常に高く、すでに十分な宇宙科学技術及びそれに関する知識を身に付けている。	↔	興味・関心が高く、ある程度の宇宙科学技術及びそれに関する知識を身に付けている。	↔	宇宙科学技術及びそれに関する興味・関心がある程度ある。
b. 宇宙科学技術の魅力の発信や普及、技術の発展を担うための意欲	魅力の発信や普及、発展を担うための自身の将来像が明確、具体的であり、意欲が非常に高い。	↔	魅力の発信や普及、発展を担うための自身の将来像が明確であり、意欲が高い。	↔	魅力の発信や普及、発展を担うための自身の将来像を持っており、意欲が見られる。
c. 国際的な感覚を養う意欲	国外での活動や国外者との交流に非常に積極的な姿勢であり、国際的な感覚を身に付けたい意欲が非常に高い。	↔	国外での活動や国外者との交流に積極的な姿勢であり、国際的な感覚を身に付けたい意欲が高い。	↔	国外での活動や国外者との交流にある程度積極的な姿勢であり、国際的な感覚を身に付けたい意欲が見られる。
d. 仲間や教員と積極的にコミュニケーションをとる姿勢	非常に高いレベルで、意欲的に他者とコミュニケーションを取る姿勢を持っており、他の考え方の共通点や相違点を整理することや、異なる考え方を統合することができる。	↔	意欲的に他者とコミュニケーションを取る姿勢を持っており、他の考え方の共通点や相違点を整理することや、異なる考え方を統合することができる。	↔	他者とコミュニケーションを取る姿勢を持っている。
e. 課題設定力	現在の状況から問題を発見・定義し、必要な情報を収集して、解決のための構想を立てることができる。	↔	現在の状況から問題を発見・定義し、必要な情報を収集することができる。	↔	現在の状況から問題を発見・定義することができる。

2. 令和8年度公募について

宇宙スキル標準とは

ロケットや人工衛星の研究・設計・開発・製造・打上げ・運用・デザイン・提供等の従事者が身につけるべきスキルを「宇宙スキル標準」として定義
日本の宇宙産業における標準的な指針として活用されることを目指す

プログラム 創造・組成	1	調査・動向把握	設計・ 解析	21	構造設計・解析	試験	47	機性能試験	打上げ・ 衛星 運用	68	射場管制	
	2	計画策定		22	機構設計・解析		48	燃焼試験		69	射場安全管理	
	3	システムデザイン・マネジメント		23	熱/熱制御設計・解析		49	耐圧試験		70	極低温流体マネジメント	
プロジェクト マネジメント	4	プロジェクト統合マネジメント		24	空力設計・解析		50	衝撃試験		71	飛行安全管理	
	5	スコープマネジメント		25	流体制御設計・解析		51	振動・音響試験		72	衛星運用管制	
	6	タイムマネジメント		26	電気推進システム設計・解析		52	熱試験		73	重機操縦	
	7	コストマネジメント		27	化学推進（固体燃料） システム設計・解析	53	EMC試験	74	電気設備管理			
	8	品質マネジメント		28	化学推進（液体燃料） システム設計・解析	54	放射線試験	75	機械設備管理			
	9	資源マネジメント		29	艦装設計・解析	製造・ 加工	コーポ レート	76	気象予測・判断			
	10	コミュニケーションマネジメント		30	回路設計・解析			55	システム インテグレーション	77	法令対応	
	11	リスクマネジメント		31	ネットワーク設計・解析			56	アッセンブリ	78	安全保障貿易管理	
	12	調達マネジメント		32	誘導制御系の設計・解析			製造 基本 技能	57	はんだ付け	79	語学力
	13	ステークホルダーマネジメント		33	姿勢制御系の設計・解析				58	ハーネス組付け	80	技術営業
基盤技術	14	システムズエンジニアリング		34	太陽電池システム設計・解析				59	3Dプリンティング （金属）	81	契約関連手続き
	15	モデルベース開発		35	EMC設計・解析	60	接着作業		82	知的財産権		
	16	ソフトウェアエンジニアリング		36	コンピュータ設計・解析	61	塗装作業		83	標準化対応		
	17	プログラミング		37	機械的インターフェース 設計・解析	62	インサート処理作業		84	ガバナンス管理		
	18	AI・機械学習		38	電氣的インターフェース 設計・解析	63	リベット作業		85	予算/資金管理		
	19	データサイエンス		39	材料設計・解析	64	ネジ締め付け作業		86	税務処理		
	20	周波数調整		40	信頼性設計	65	ネジ固着作業		87	会計処理		
				41	安全性設計	66	カシメ作業		88	外為業務		
		42		保安全性設計	67	電子部品静電防止 作業	89	資金調達				
		43		整備性設計			90	情報システム				
		44		軌道設計・解析			91	情報セキュリティ				
		45		航法設計・解析			92	人材採用				
		46		宇宙環境条件の反映 （設計・解析）			93	人材配置/評価				
						94	人材育成					

※スキルのカテゴリはあくまで便宜的にスキルをグルーピングをするためのものであり、「業務カテゴリ」とは異なる点に留意

(例)プログラムの体系化や育成した人材のキャリアパス支援などに活用

内閣府宇宙戦略推進事務局
業務・スキル概説書(p8)より引用

2. 令和8年度公募について

①公募対象プログラム

②宇宙人材育成プログラム/新規分野開拓人材育成

目的	将来、人間が月や火星で長期滞在するときに必要となってくる衣食住環境やインフラなどについて、主に宇宙工学やAI以外の分野(建築学、医学、生命科学、服飾学、社会科学、法政策、デザイン、哲学・倫理学など)を専門的に学び、新たな視点から将来の宇宙開発や我が国のプレゼンス強化に寄与する人材(大学院生、大学生、高等専門学校生等)を年間十数人程度の規模で育成できる基盤の構築・強化
育成対象	大学院生、大学生、高等専門学校生等
研究期間	3年間(令和8年10月頃～令和11年3月31日)
採択件数	3件予定(①～③のなかで)/1年あたり1,040万円(間接経費込み)

○対象となる取組例

- 宇宙工学の専門家とそれ以外の分野の専門家が共同で講座を開講し、宇宙での環境適応・都市構造などについて構想・実現できる能力を養成するプログラムの構築・実施
- 海外機関と連携して月面における居住設計などについて学び、プランをコンクールに応募することを目指すプログラム構築・実施 等

2. 令和8年度公募について

①公募対象プログラム

②宇宙人材育成プログラム/新規分野開拓人材育成

(実施要件等)

- ✓ 学部・学科に閉じず**コース修了の認定制度**を設ける
- ✓ 企業や研究機関と連携を深め、本プログラムを**修了したことが評価されるような基盤を作る**
- ✓ 事業終了後に、本プログラムでの**活動を広く周知**するようなウェブサイトを構築し、プログラムのプレゼンスを上げる工夫をする
- ✓ プログラム内で育成する人材像や**必要なスキル**等の提示
- ✓ 教育プログラムの効果、育成する学生等の**成熟度・成長度合い**等を測定・評価する手法を提示
- ✓ 事業終了後も引き続き取組を行うために必要な連携体制の構築や資金の確保
- ✓ 学部・学科等の組織単位(実施機関が大学)や他機関も含めた取り組み(民間企業等)
- ✓ (推奨)宇宙スキル標準との連携

2. 令和8年度公募について

①公募対象プログラム

③宇宙人材育成プログラム/次世代人材育成

目的	高校生や高等専門学生を対象に、年間数十人程度の規模で、模擬衛星やロケット、気球等の打ち上げ、無重力体験などの実践的な体験(シミュレーションやデータ解析は除く)や、宇宙への興味・関心を深める活動を提供できる基盤の構築・強化を推進
育成対象	高校生、高等専門学校生等
研究期間	3年間(令和8年10月頃～令和11年3月31日)
採択件数	3件予定(①～③のなかで)/1年あたり650万円(間接経費込み)

○対象となる取組例

- 宇宙研究開発に携わる多様な機関(民間企業・大学等)が連携し、学生の宇宙への興味関心を深めることに繋がる講演や体験型ワークショップの開催(宇宙分野の課題解決や我々が直面する社会課題の解決に宇宙技術の活用を考える体験ができるワークショップの開催なども含む)
- 模擬衛星やロケット打ち上げ、無重力体験などの小規模プロジェクトによるPBL(Project Based Learning)を経験することで習得した知識や技能を活用し、新たな宇宙利用を構想・マネジメントする能力を養成するプログラムの開発・実施 等

2. 令和8年度公募について

①公募対象プログラム

③宇宙人材育成プログラム/次世代人材育成

(実施要件等)

- ✓ プログラム内で育成する人材像や必要なスキル等の提示
- ✓ 教育プログラムの効果、育成する学生等の成熟度・成長度合い等を測定・評価する手法を提示
- ✓ 事業終了後も引き続き取組を行うために必要な連携体制の構築や資金の確保
- ✓ 学部・学科等の組織単位(実施機関が大学)や他機関も含めた取り組み(民間企業等)
- ✓ (推奨)宇宙スキル標準との連携

高等学校・高等専門学校は単独ではなく、体制に大学や企業等が含まれていることが望ましいです。

2. 令和8年度公募について

①公募対象プログラム

④宇宙人材育成プログラム/地球低軌道インターフェース人材育成

政策的背景

- ✓ 2030年の国際宇宙ステーション(ISS)の退役に伴い、ポストISSでは民間商業宇宙ステーションの活用が想定
- ✓ **宇宙開発利用部会国際宇宙ステーション・国際宇宙探査小委員会**
「我が国の地球低軌道活動の充実・強化に向けた取組の方向性」
(第12期国際宇宙ステーション・国際宇宙探査小委員会議論の整理)にて、

地球低軌道利用のインターフェース人材の育成について、専門性の高い地球低軌道利用の価値やその仕組みを新規・潜在ユーザーに伝える、研究開発マネジメント人材、事業開発人材の人材育成支援を行う旨記載



地球低軌道活動の充実・強化が重要であり、特に非宇宙分野の民間事業者による地球低軌道利用の拡大(半導体やライフサイエンスなどの出口分野など)が必要

2. 令和8年度公募について

①公募対象プログラム

④宇宙人材育成プログラム/地球低軌道インターフェース人材育成

目的	非宇宙分野における地球低軌道活動の利用を促進するため、 技術的知見 を要し、専門性の高い 地球低軌道利用の価値やその仕組み を、新規・潜在ユーザーに伝え、具体的な 研究・事業活動の準備・実施をコーディネート するユーザーインテグレーション人材(地球低軌道利用のインターフェース人材)
実施機関	民間企業・大学
研究期間	3年間(令和8年10月頃～令和11年3月31日)
採択件数	1件(予定)/1年あたり2,600万円(間接経費込み)

○対象となる取組例

- ・ 地球低軌道利用に必要な科学的情報や技術的知見、研究・ビジネス展開の実例・Q&A等を含む**ポータルサイトのコンテンツ収集/制作・サイト運営**
- ・ ビジネスプランを作成してピッチを行い、ベンチャーキャピタル (VC)から意見をもらうなど、実際の事業立ち上げにもつながる合宿 等

2. 令和8年度公募について

①公募対象プログラム

④宇宙人材育成プログラム/地球低軌道インターフェース人材育成

(実施要件等)

- ✓ 地球低軌道を活用したビジネス展開に必要な情報の体系的集約と、オンデマンドでの展開
- ✓ 体系化した知見に関する講義や実践的な研修等の実施
- ✓ 宇宙産業への参入に必要な知識をもって、社内の調整が可能な人材を育成
- ✓ 地球低軌道活用において必要となるテクニカル要件や科学的な知見を所有
- ✓ 事業終了後も引き続き取組を行うために必要な連携体制の構築や資金の確保
- ✓ 学部・学科等の組織単位(実施機関が大学)や他機関も含めた取り組み(民間企業等)

2. 令和8年度公募について

①公募対象プログラム

政策的背景

✓ 航空科学技術分野に関する研究開発ビジョン

(令和4年7月 文部科学省 科学技術・学術審議会 研究計画・評価分科会)

- 航空機産業の長期的な発展にとって、人材確保が重要な課題となっている
- 民間企業のみでは取り組むことが難しいハイリスクな先進的技術や短期間では成果の出にくい基盤技術に取り組むことが必要

✓ 新たな航空機産業戦略(令和6年4月 経済産業省 産業構造審議会)の策定

✓ 「危機管理投資」「成長投資」の戦略分野として航空・宇宙が取りまとめられる
(令和7年11月 日本成長戦略本部)



航空分野において価値の源泉となる「航空科学技術」の重要性が高まっており、以下の取組が必要

⑤航空実験基盤拡充プログラム

航空科学技術を担う人材基盤の維持・発展(特に実験ができる人材が枯渇)

⑥革新的航空科学技術創出プログラム

実用化を見据えた革新技術の創出

2. 令和8年度公募について

①公募対象プログラム

⑤航空実験基盤拡充プログラム

目的	航空機産業において我が国の国際競争力を強化する観点から、航空機産業を下支えする航空科学技術のうち、特に近年枯渇する、次世代人材のための 実験環境の整備拡充を行う ことで、 航空分野の実験を担える人材(大学院生、大学生、高等専門学校生等)の継続的輩出
育成対象	大学院生、大学生、高等専門学校生等
研究期間	3年間(令和8年10月頃～令和11年3月31日)
採択件数	1件(予定)/1年あたり1,800万円(間接経費込み)

○対象となる取組例

- ・ 風洞、燃焼試験テストベッド、フライングテストベッド等**試験環境の新規構築や更新と、データの取得および評価、試験技術開発**
- ・ 企業やJAXAなどが所有する設備・実験機器を活用した比較試験による、**シミュレーション結果の実証、手元の試験装置の改良** 等

2. 令和8年度公募について

①公募対象プログラム

⑤航空実験基盤拡充プログラム

(実施要件等)

- ✓ 学部・学科等の組織単位
- ✓ **実験環境の整備**、もしくは、外部機関設備等を活用した実験体制を構築
- ✓ シミュレーションの使用も可能だが、必ず実験を行う
- ✓ 整備した環境の活用計画など、事業終了後に目指す姿を提示(事後評価時)

○評価のポイント

事業内で、整備した試験環境を用いた人材育成効果を測るところまでは求めているが、事業終了後に、その試験環境を利用した人材育成を行い航空分野の裾野拡大に寄与する必要がある。そのため、以下のようなポイントを心掛けてほしい。

- ✓ 整備した試験環境及び今回以降の取り組みが、学生や社会人に対して**裾野拡大効果があること**(研究室や進路選択などに影響を与えられることが望ましい。)
- ✓ 今回以降の取り組みが、**学術的な示唆を与え得ること**。(実験をやってみただけで終わらず、深い考察を促すような取り組み内容になっているか)

また、試験環境整備の有効性向上のため、試験環境が以下の特徴を持つよう心掛けてほしい。

- ✓ 計測手法や現象解明などの観点で、**新規性**を持つ、もしくは生み出すことに貢献できること。

2. 令和8年度公募について

①公募対象プログラム

⑥革新的航空科学技術創出プログラム

目的	多種多様な次世代の航空機等における安全性、信頼性、環境適合性及び経済性の向上や新たな可能性開拓を目指し、実用化を見据えた技術の開発・高度化や異分野連携も活用した革新技術の創出等
対象	航空分野、航空分野と異分野の技術シーズ・ニーズの融合・連携による革新的な技術を開発
研究期間	3年間(令和8年10月頃～令和11年3月31日)
採択件数	1件/1年あたり1,300万円(間接経費込み)

○対象となる取組例

- ・ 航空機や宇宙輸送機の軽量化を実現する材料技術、航空機の電動化に必要となる技術、エンジンの低燃費化を実現する技術に関する研究開発
- ・ 先進的な可視化試験技術開発、無線給電データ送信センサの実用化、AI飛行制御技術開発 等

2. 令和8年度公募について

①公募対象プログラム

⑥革新的航空科学技術創出プログラム

(実施要件等)

- ✓ 産学官連携部門等も参画
- ✓ 事業終了後に目指す姿を明確化
- ✓ (推奨)事業終了後に目指す連携体制・資金計画を提示(事後評価時)

2. 令和8年度公募について

①公募対象プログラム

各プログラムのまとめ

	研究期間	採択予定 件数	採択予定額 (間接経費込み) (1年あたり)
①宇宙人材育成プログラム/宇宙専門人材育成	3年間	3件(予定)	1,560万円
②宇宙人材育成プログラム/新規分野開拓人材育成	3年間		1,040万円
③宇宙人材育成プログラム/次世代人材育成	3年間		650万円
④宇宙人材育成プログラム/地球低軌道インターフェース 人材育成	3年間	1件(予定)	2,600万円
⑤航空実験基盤拡充プログラム	3年間	1件(予定)	1,800万円
⑥革新的航空科学技術創出プログラム	3年間	1件(予定)	1,300万円

- 研究期間は原則として、3年間だが、それより短い期間でもよい。
- 採択予定額は年度毎に**金額上限**であり、その範囲内で採択(審査会で減額の可能性もあり)。

2. 令和8年度公募について

②評価項目、審査基準

専門ワーキンググループ(書面審査)及び審査評価会(面接審査)において審査し、採択課題候補を選定

(評価項目及び審査基準)

(1) 目的の妥当性【20点満点】

- 提案内容がプログラムの対象、実施要件に合致した内容であるか。
- 提案内容の短期アウトカムは公募要領に記載のある各プログラムの目的達成に繋がるものであるか。
- 提案内容の目標(アウトプット)は、短期アウトカムの達成に必要な十分なものであるか。
- 提案内容の目標(アウトプット)には適切な評価基準が算定され、その目標値には有効な根拠が示されているか。

(2) 方法・計画・体制の妥当性【10点満点】

- 提案内容における方法・計画は、目標(アウトプット)の達成に必要な十分なものとなっているか。
- 課題の実施に必要な人材、研究開発体制、施設・設備等が確保され、実現性が高いものであるか。

(3) ワーク・ライフ・バランス等の推進に関する評価【2点満点】

ワーク・ライフ・バランス等の推進に関する認定等又は内閣府男女共同参画局長の認定等相当確認を有しているか。

(4) その他【点数化しない】

他制度からの補助金、助成金等を受けている場合、その研究開発との仕分けが明確であるか。
また、既存の実施課題等との重複がないか。

2. 令和8年度公募について

②評価項目、審査基準

2. 目標(アウトプット) ○○○○○…		様式2:提案書 I.目的	
目標(アウトプット)達成に必要なスキルや要素については以下のとおりである。			
育成する人物(能力・特性)に必要なスキル、もしくは、開発する製品・手法(性能)に必要な要素	評価指標	目標値	
(例)英文を読んで理解することができる	新聞の内容についてのテストでの正答率	ミニマム: 80% フル: 100%	
英語を聞いて意味が理解できる	共通テスト試験で過去に出されたリスニングテストの正答率	ミニマム: 70% フル: 90%	
シミュレーション上で要求値を達成できる設計アルゴリズム	ブレードの重量、効率	1kg、70%	
		1kg、70%	
風洞施設設備	狙った性能への到達度	ミニマム: 70% フル: 100%	
上記指標が妥当である根拠については、○○○○			

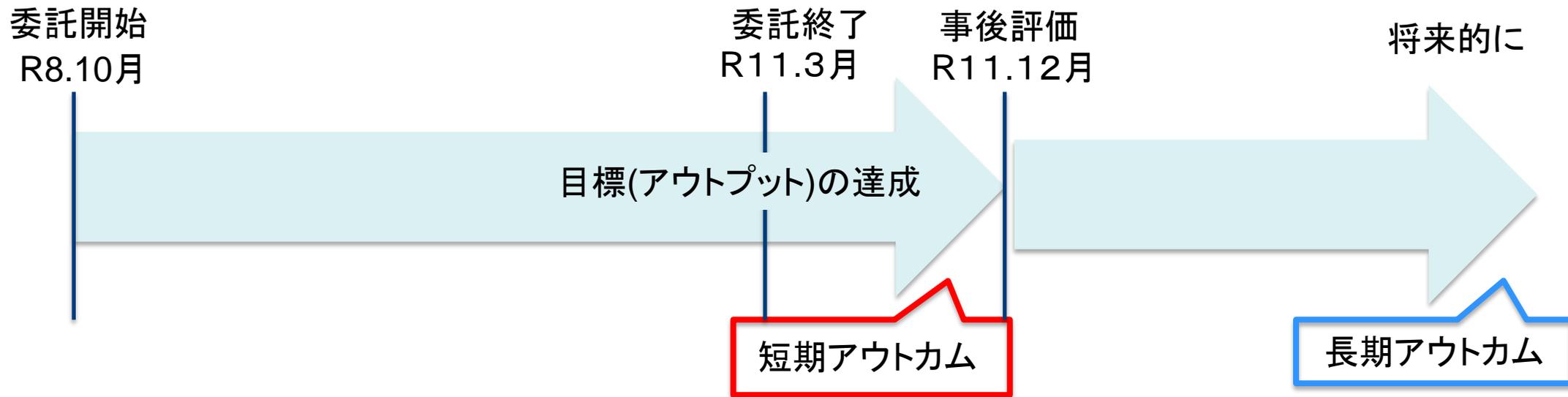
宇宙人材育成プログラム(①宇宙専門人材育成②新規分野開拓人材育成③次世代人材育成)については、**実施期間内に育成する人物(能力・特性)とその手法**について定める必要がある。

④宇宙人材育成プログラム/地球低軌道インターフェース人材育成、⑤航空実験基盤拡充プログラム、⑥革新的航空科学技術創出プログラムについては、求める人物像や研究目的は既に決まっているので、**実施期間内に開発する製品・手法(性能)**について定める必要がある。

2. 令和8年度公募について

②評価項目、審査基準

様式2:提案書 I.目的



短期アウトカム 事後評価までに想定される効果・効用や波及効果(インパクト)
事後自己点検の方法や考え方(どのような意義を有する成果がどの程度出れば、課題の目的が達成したものと見なすこととなるのか)やその指標について、根拠(世界水準や既往事例からの進歩等)を踏まえて記載ください。

長期アウトカム 将来的に想定される波及効果等や事業終了後に目指す姿や、事業終了後の計画(活動継続のための体制や資金計画)
現時点の見通しを記載してください。

2. 令和8年度公募について

③スケジュール

2月16日 公募開始

➔ 3月12日 公募説明会

4月13日(月)17時00分 公募締切(必着) e-Radでの提出

4月～5月 書面審査

6月上旬 書面審査結果通知、面接審査対象課題の決定

6月下旬 面接審査

7月中旬 採択課題の内定

7月～8月 採択課題の公表、採択もしくは不採択の通知

10月上旬 委託契約締結、委託業務開始

【ご注意】

府省共通研究開発管理システム(e-Rad)への事前登録

※e-Radを利用しないと、本委託費への応募が出来ません。

- ✓ e-Radへの応募情報の入力及び応募書類の提出が必要
- ✓ 所属研究機関のe-Radへの登録手続きには、**2週間以上**かかる場合がある。
- ✓ 主管実施機関、共同参画機関ともにe-Radへの登録手続きが必要(協力機関の登録は不要)。
- ✓ 全ての研究参画者の研究者番号の取得が必要。

◆e-Radポータルサイト <https://www.e-rad.go.jp/>

e-Rad利用可能時間帯:(月~日)0:00~24:00

※時間内であっても緊急のメンテナンス等により、サービスを停止する場合があります。

◆e-Radヘルプデスク Tel: 0570-057-060 (ナビダイヤル)

受付時間帯:平日9:00~18:00 ※年末年始を除く。

※上記ナビダイヤルをご利用になれない場合は、直通ダイヤル(03-6631-0622)

事前にいただいた質問

Q 複数のプログラムに同時に申し込むことは可能か。

A **出来ません。提案の最終目的に近いプログラムをお選びください。**

Q 本事業の研究代表者/主管実施機関として申請し、かつ別の提案に共同参画機関として参加申請することは可能か。

A **可能ですが、エフォートで管理し、提案書に明記するようにしてください。**

Q 子会社への委託は可能か。

A **可能ですが、子会社と経費を明確に分け、再委託先とするようにしてください。**

Q これまでどのような実施課題があったのか知りたい。

A **宇宙航空科学技術推進委託費のウェブページをご覧ください。**

宇宙航空科学技術推進委託費

https://www.mext.go.jp/a_menu/kaihatu/space/jigyou/detail/1347482.htm



令和8年度宇宙航空科学技術推進委託費の公募について

https://www.mext.go.jp/b_menu/boshu/detail/1401208_00013.html



3. Q&A

ご質問があればwebexの挙手機能をお使いください。
順番に回答させていただきます。



画面下部の挙手のボタンをクリック

- 事務局から順に当てますので、マイクをONにしてご発言ください。
- ご質問の前に、ご所属・お名前を教えてください。
- 画面はOFFで構いません。
- 質問・回答の概略を文科省の本委託費HPに掲載しますのでご承知おきください。

個別の提案内容についてのご質問は説明会の中では出来かねますので、
以下までご連絡ください(公募締め切り4月13日(月)17時までご利用できます)。

宇宙航空科学技術推進委託費 令和8年度公募 お問合せフォーム
(文部科学省 研究開発局 宇宙開発利用課)

【URL】 <https://forms.office.com/r/Yxs2gVnwjG>

